

アプリで楽々 米の荷受け



生産者が持参したカードに記載されたQRコードを読み取る同JA職員（三重県玉城町で）

三重・JA伊勢 “手書き”不要に

【三重・伊勢】JA伊勢は、ライスセンターで生産者から米を荷受けする際のアプリを開発した。生産者約8

〇〇人を対象に、QRコードを記載したカードを配布。JA職員がスマートフォンで読み取ると、画面に各生産者の専用のページが表示され、職員が荷受数量や水分量を入力する。生産者が情報を手書きする必要がなくなり、混雑しがちな荷受けの円滑化につながっている。

同JAのライスセン



ターなどでは受け付けの際、生産者に手書きが必要な情報を受付表に記入してもらっていた。2025年産小麦の荷受けで、QRコードでの受け付けを試験的に行ったところ、問題なく運用ができたことから、25年産米での導入に踏み切った。

アプリは、同JAのIT・DX対策課の職員が作った。ライスセンターの申し込みがあった生産者ごとに専用ページを作成。生産者には、専用ページにアクセスできるQRコードを記載した名刺サイ

ズのカードを配布し、荷受時に持ってきてもらう。職員が業務用スマートフォンで読み取ると専用ページが表示され、職員が荷受数量や水分量を入力すると受け付けが完了する。

ライスセンターに設置してあるタブレットからも生産者の個人ページにアクセスでき、職員はリアルタイムで荷受数量を把握できる。同JAの担当者は「手書きがなくなっ

あすの新聞休みます

15日（月）は新聞制作を休み、16日（火）を休刊とさせていただきます。ご了承ください。日本農業新聞